

令和6年度 第1回静岡市食育推進会議 会議録

- 1 日 時 令和6年7月31日(水) 午後2時00分～午後3時30分
- 2 場 所 静岡市役所新館 9階 特別会議室
- 3 出席者
(委 員) しずおか市消費者協会 青木良子委員、市民委員 梅木幹子委員、
静岡市校長会 小田泰子委員、静岡市清水医師会 門田景介委員、
静岡市静岡歯科医師会 木下博雄委員、
静岡県栄養士会 久保田美保子委員、静岡県立大学 桑野稔子委員、
市民委員 新谷琴美委員、市民委員 杉浦元昭委員、
静岡商工会議所 松浦高之委員、
静岡市公立こども園園長会 水谷智美委員、
静岡市食生活改善推進協議会 渡邊良子委員 (五十音順) 計 12名
(欠席：関東農政局 柏谷広樹委員、静岡市農業協同組合 三津山定委員、
由比港漁業協同組合 宮原淳一委員)

(事務局) 保健福祉長寿局 萩原局次長
健康福祉部 健康づくり推進課
川口課長、大勝総務係長、望月(有)主任栄養士、橋本主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事 (1) 第3次静岡市食育推進計画 令和5年度事業評価について
(2) 第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票について
(3) 第4次静岡市食育推進計画 令和6年度事業計画について
(4) 第4次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票の
作成について
- 6 会議内容

開会
保健福祉長寿局次長 挨拶
議事(進行：桑野議長)

議事（1）第3次静岡市食育推進計画 令和5年度事業評価について

説明：事務局（望月）

（資料1-1）

- ・第3次食育推進計画対象事業の評価について
- ・16の目標の評価：A評価が最も多かった
- ・令和4年度にD評価だったものは7つあったが、令和5年度では3つに減少

（資料1-2）

- ・B評価の11事業については、7事業が第4次食育推進計画でも継続
- ・ただし、静岡市食生活改善推進協議会の事業については、第4次食育推進計画に向けて整理し、3事業を削除
- ・児童生徒支援課の健康教室事業については、市が実施主体ではないということで掲載削除
- ・C評価の1事業とD評価の3事業については、今後も事業内容等については検討
- ・ただし、静岡市食生活改善推進協議会の男性料理教室については他事業に含めることとし削除

（資料2-1）

- ・第3次食育推進計画の目標別事業一覧について

（資料2-2）

- ・関係課、関係団体による目標ごとの事業まとめ
第3次食育推進計画の評価としては、令和5年度をもって終了
- ・令和4年度に実施した「健康・食育に関する意識・生活アンケート調査」より、静岡市の食に関する課題が上がってきたため、課題解決に向けて第4次食育推進計画を開始する

（委員からの質問・意見）

なし

議事（2）第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票について

説明：事務局（橋本）

（資料3）

- ・第3次食育推進計画の重点事業は、計画の目標値を達成する上で、最も影響のある事業として、18事業を選んでいる（そのうち関係団体の事業は6事業）
- ・個票の目標には、学習目標、行動目標、環境目標、結果目標の4つを挙げている

- ・計画の終期となる「令和5年度結果目標」を最終目標に、毎年評価
- ・評価は、企画評価、経過評価、影響評価、結果評価の4つを報告、「令和5年度結果評価」も記載
- ・こども園課の「公立こども園における食育推進事業」では、「噛む力」に特化した食育活動ということで、園児、保護者それぞれの目標を細かく設定し、行動変容につなげることができるように取組内容を記載
評価についても経過評価、影響評価を目標に従って細かく評価した上で課題を導き出し、企画評価で事業自体の評価
- ・第4次食育推進計画においても、重点事業を中心に市の食育事業を進めていく

(委員からの質問・意見)

なし

議事(3) 第4次静岡市食育推進計画 令和6年度事業計画について

説明：事務局(望月)

(第4次食育推進計画概要版の説明)

○主な現状課題について

1.食に関心を持つ若い世代の割合

- ・20～30歳代の若い世代では、計画策定時より20%ほど減少
市民全体においては、35%ほど減少しているという結果であり、目標は若い世代としているが、市全体で取り組んでいく必要がある

2.毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合

- ・共食については14%ほど減少
食事に関する価値観、ライフスタイルの多様化により、共食を希望していない方が一定数いるという状況

3.茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合

- ・第3次計画策定時より、12%ほど減少
「いつも飲んでいる」と答えた50歳代の割合が63.3%から36.3%に減少

○第3次食育推進計画の課題

- ・栄養バランスへの配慮、規則正しい食生活の実施
- ・若い世代の食に対する興味・関心の喚起

- ・食の継承や地産地消、環境配慮などの持続可能性
- ・「新たな日常」やデジタル化への対応

○基本理念

食で「しずおかのつながり」を深め、未来の健康を育もう
～みんなでおいしく食べて、元気あふれるまちづくり～

静岡の美味しい食材を中心に、それぞれが楽しみながら味わい、健全な食生活とともに、食を大切に作る心豊かな人間性を育むことを目指す

○基本方針

- ・誰もが生涯健康で心豊かな食生活の実現
- ・若い世代が食を楽しみ、食の大切さを知る食育の推進
- ・持続可能な食を支える環境の醸成

デジタル化に対応した
食育の推進

基本方針のもとに、10の基本施策を掲げ、関係課・関係団体と食育事業を実施していく

○第4次食育推進計画から始める主な取組

※基本施策の主な取組として、第4次食育推進計画から新たに記載したものについて説明

(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践

⇒健康に配慮したメニューの提供をする飲食店を増やし、外食・中食を通じた自然に健康になれる食環境づくりでは、飲食店関係者等を対象とした食育セミナー、専門講座などを実施

(5) 食育の普及啓発・情報発信

⇒動画やブログ形式による食に関する情報等を掲載する学校給食ウェブサイトの開設

(6) 規則正しい食習慣の実践

⇒若い世代の食の課題を考える食育教室やイベントの開催
新社会人に向けた出張型食育教室の実施

(7) 環境に配慮した食生活の実践

⇒環境に配慮した農林水産物、食品を意識して選ぶことを目標に「エシカルな消費者の育成」ということで、エコ商品の選択、マイボトルやマイバッグの使用、フードロス削減などを中心に周知

(8) 地産地消の推進

⇒観光政策課では、静岡市ならではの食を提供することで、観光客の誘致を図るウオーキ

ングイベントを実施する団体に対し、補助金を交付する事業を行う（ガストロノミーウォーキング事業補助金）

（9）食文化の継承

⇒地域で活躍する食育ボランティア人材を増やすために、食育ボランティア人材養成講座を開設（静岡シチズンカレッジこ・こ・にの講座）

○第4次食育推進計画の数値目標

※28の目標・31の目標値

第3次食育推進計画から追加または変更した目標について説明

- ・No.4、No.5「食事を一人で食べる子どもの割合（朝食、夕食）」
学童期（6～12歳）の目標値について追加
- ・No.6「朝食を欠食する若い世代の割合」
20代・30代だけでなく、学童期（6～12歳）思春期（13～19歳）の目標値を追加
- ・No.9、No.10、No.11「食塩、野菜、果物の摂取量」
国の第4次食育推進基本計画の目標値を追加
- ・No.12「女性のやせ」
20歳代 → 20歳～30歳代と幅を広げて目標値を設定
- ・No.13「高齢者のやせ」
高齢者の低栄養予防に向けて目標値を追加
- ・No.17「食育ボランティアの数」
国の第4次食育推進基本計画の目標に合わせ追加
- ・No.20「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合」
国の第4次食育推進基本計画の目標に合わせ追加
- ・No.23「郷土食・伝統料理を月1回以上食べている市民の割合」
国の第4次食育推進基本計画の目標に合わせ追加
- ・No.26、No.27、No.28「学校給食に関する目標」
学校給食課と協議し、第4次食育推進計画へ目標値を追加

（資料4-1）

- ・10の基本施策に基づき振り分けた登載事業一覧について
- ・重点事業については今後、見直しを実施予定
- ・第4次食育推進計画の中間年には評価・見直しをする予定

（資料4-2）

- ・主な目標・取組内容等まとめ
- ・第4次食育推進計画は7年間の計画であり、31の目標値を設定し進行管理をする

・令和6年度からの事業評価方法については検討中

(委員からの意見・質問)

松浦委員

概要版6ページの数値目標について確認をさせていただきます。

No.4の「食事を一人で食べる子どもの割合(朝食)」の現状値は、学童期で9.5%となっていますが、同じ学童期の朝食を欠食する割合の4.2%の数値は、統計上どうなっていますでしょうか。欠食する子どもたちを除いた、一人で食べている子どもの割合という統計になっているということでしょうか。

事務局(望月)

その通りです。

松浦委員

食事を一人で食べる子どもの割合(朝食)の目標が8.5%以下でいいのかという数値の設定は気になりました。

桑野議長

概要版の3ページの「静岡市の食をめぐる現状について」の説明で、「毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合」が策定時と比べるとかなり減ってしまったと聞きました。具体的にどの年代が多いなどお教え下さい。

事務局(望月)

20歳代の若い世代で、特に男性の半数以上が一人で食べているという結果でした。その反面、共食の希望が多いのも20歳代が多かったです。

桑野議長

今回、茶葉から入れた緑茶を飲む人の割合で、特に50代が少なくなったという結果でしたが、静岡市としては何かこの課題について取組を考えていますか。

事務局(望月)

この目標については、昨年度、委員の皆様にも「茶葉から入れた緑茶を飲む」とするのか、「ペットボトル等を含む緑茶を飲む」とするのか、何回か議論していただきましたが、やはり、茶葉から入れたお茶を飲むという静岡の伝統を残していきたいという思いも強く、今回目標として継続をしました。しかし、このままいくと茶葉から入れた緑茶を飲む習慣が衰退してしまうのではないかという危機感もあります。

関係課を作業部員とした部会の中でもこのような現状を共有しています。当課ではイベントの際に茶葉のバックやお茶を使ったレシピを配布するなど、小さいことではありますが、市民の皆様を意識づけができたかと考えています。また第4次食育推進計画ではデジタル化に対応した食育の推進ということで、SNSやWebサイト、YouTubeの動画を使うなど、関係課・関係団体と連携しながら取り組んでいきます。

桑野議長

きっかけがとても重要だと思いますし、周知もそのようにできたら良いと思います。

渡邊委員

私たち静岡市食生活改善推進協議会でも3年ほど前から、放課後子ども教室に参加する児童にお茶に関するリーフレットや茶葉を配布しています。最初は茶葉を10gずつ入れて配布したら、「急須がないから飲まない」と言われてしまいました。次の年からはバックに詰めたものを配布したら、「水筒に入れて飲んだ」と言っていました。

また、教室の中では子どもたちにクイズをするのですが、急須の絵を出して、「これを知っていますか」と聞いてみると、ほとんどの子どもが「知らない」と答えました。家では、ほとんどお茶を飲まないというので、子どもたちにお茶のバックを配布し、「おうちの方と飲んでみてね」と伝え、お茶を飲む機会が増えることを期待しています。

お茶は静岡市の特産なので、農業政策課などとも連携し、啓発していただけたらと思います。

桑野議長

子どもから保護者の方に伝えていくことは大切ですね。

他にご意見、ご質問はございますか。

久保田委員

最初の資料となりますが、資料1-1の「令和元年度～5年度 事業評価（全体）の比較」で、令和5年度はコロナ前の令和元年度と同様の結果であったということで、食育活動がほぼ再開できているという報告でした。しかし、B評価となった事業で、「参加者を募集したが定員に達しなかった」という報告でしたが、その周知方法は適切だったのかという点については気になりました。

渡邊委員

私たち静岡市食生活改善推進協議会は自分たちで会費を集めて運営しているボランティア団体です。事業費に余裕があるわけではないため、自分たちから積極的に教室開催に関する発信ができないこともあります。それでも各団体等より依頼をいただき、年間100回以上の教室は開催しています。

しかし近年、なかなかボランティアに参加して下さる方が少なくなっていることや、当協議会でも会員の3分の2くらいは就業しているので、残りの3分の1の会員で何とか事業は回している状況です。

依頼される方々は、私たちはボランティア団体ということで、無料で来てもらえると思われているので、少々、辛いところもあります。よって、もう少し行政が支援していただくと嬉しいです。

私は県食推協の会長と全国の理事会にも参加しておりますが、有償のボランティア団体になったという市があると聞きます。健康づくりのボランティア活動を通して、健康でいられる市民が増えれば、医療費の負担が減ります。そのように、健康づくりに関する活動を増やしていくために有償のボランティア団体となり、事業開催に対して市から謝金をいただくというような体制作りをご検討いただくことが、今後も活動を継続していくためには必要です。

また、何かいい方法があれば、皆様からご教授いただきたいです。

新谷委員

まちづくりにも携わっている中で、無償で活動することがいかに限界になっているかと切に感じているところです。

若い世代の方たちは健康をテーマとした料理教室に高額でも参加していることから、ニーズはあるのだと思いますが、その中でボランティアとして無償で実施していくのも、そろそろ限界に近づいているのではないかと思います。

ボランティア団体は高齢化し、活動できる会員は限られる中で、若い世代の方々は共働きの家庭も多く、無償でボランティアに行くというのは非常に難しい時代が来ていると感じます。

しかし、若い世代が入ってきてくれることで、もっと SNS での情報発信ができると思いますし、食育活動を広く周知していくことにもつながります。

ボランティア団体の継続のためには、どこか多少でも予算をつけていただくなど検討していかないと、存続は難しいと思います。

もう一点感じたことですが、私はビジネスをやっているのですが、その観点からみますと、数値目標が決まっているのに、その結果が出ないのはビジネスでは許されないことです。

その結果にフォーカスすることが大切だと思います。

議事（４）第４次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票の作成について

説明：事務局（望月）

（資料５）

○進行管理の評価について

第４次食育推進計画の評価方法

S 評価：期待を上回る	計画目標に対し、105%以上達成
A 評価：期待通り	計画目標に対し、90%以上 105%未満達成
B 評価：期待を下回る	計画目標に対し、70%以上 90%未満達成
C 評価：期待を大きく下回る	計画目標に対し、70%未満の達成

市の局内の計画において評価を統一、また計画目標に対し、より細かく評価をし、課題の抽出等に繋げていくことを目的に評価方法を変更する予定

○重点事業実施計画個票の評価について

第４次食育推進計画においても、重点事業は目標を達成する上で非常に重要な事業である多くの事業が重点事業として実施していくために、個票の見直しをする

新しい個票（案）では、事業計画、評価の部分をコンパクトにし、記入部分を減らした
また、事業評価では「達成できた」「達成できなかった」をチェックする形式とし、「できなかった理由」についても記入する

（委員からの意見・質問）

門田委員

進行管理の評価はかなり厳しくなると思います。

今までの評価方法で B 評価だった事業が、今回の評価基準に変更されると C 評価になってしまうことも考えられ、印象が悪くなるような気がします。C 評価が続くということは危うくないでしょうか。

事務局（川口）

コロナ明けで環境が変わっていることから、今見直しの最中という事業もいくつかある中で、今後もコロナが蔓延した際には、食はいろいろな影響を受けることが予想されます。今までの評価基準ですと、それが本当にいいのかどうかというところが、幅が広くなりすぎ

ており、また、達成以上の部分についても分かりやすく成果を示すことが求められています。ただ以前の評価基準で目標設定をしている事業もありますから、場合によっては目標や内容等を少し見直さなくてはならないことも考えられます。

当課としましては前向きに、しっかりと評価をしやすいような形にできるよう、皆様にご理解いただき、今後、目標を立てる際には、ご助言・アドバイス等をいただけますとありがたいです。

桑野議長

評価基準が厳しくなると目標が緩くなってしまうかもしれませんので、厳しい目線を持ちながら、評価基準を変更しなければいけないということを踏まえて対応していくことが必要かと思います。

第3次食育推進計画と第4次食育推進計画で評価基準が変わったということについては、きちんと明記し、分かるようにしておくが良いと思います。

事務局（川口）

新しい評価基準で実際に今までの事業がどうなるかについては、一部、確認をしていきたいと考えています。また委員の皆様に見て頂き、見直しをしながらより良いものにしていきたいです。

水谷委員

個票については分かりやすくなったと思います。

一方で先程、こども園課が作成した個票の「囓む力」については、よく噛んで食べる子どもの割合が増加したということですが、新しい個票で評価をした場合、「やや増加した」などは「達成できなかった」という捉え方で良いのでしょうか。捉え方でだいぶ違って来るのかなと思います。

桑野議長

「達成できた」「達成できなかった」の事業評価についても S～C 評価のようにすれば、分かりやすくなると思います。

新谷委員

「やや」という表現だと、それがどの程度なのか分かりにくいですね。

桑野議長

S～C 評価であれば、そういった「やや」という表現も細かく評価することができると思います。いかがでしょうか。

事務局（望月）

ありがとうございます。S～C 評価について検討します。

桑野議長

他にご意見、ご質問はございますか。

青木委員

話が少し戻りますが、対象者の学童期が6歳～12歳ということは、小学生という意味でしょうか。

事務局

そうです。

青木委員

学童期などの子どもの頃に、栄養のことや家族と一緒に食べるということ、または環境問題等についても、インプットされていれば、大人になって、それをどこかで思い出すということがあると思います。小学校の学校給食において、その部分を少しでも広げていくことが大事だと思います。

食品ロスに関して、「残さないで食べる」という意識を持ち、それが家に帰った時に、保護者が何か残していると子どもから食品ロスを指摘されるといった、小学生の成長の中で学ぶことが大人になって役立ってくると思います。

消費者協会でもいろいろな講座をやっていますが、昔から実践したことがある、聞いたことがあるなど経験が大事です。

学童期の間に家庭で一つでもお手伝いをした経験は、大人になっても役に立ち、親になった時に子どもの伝わっていくということが、とても大切であると感じます。

各事業の評価も大切ですが、伝えていく大人を増やしていくことも大切なのではないのでしょうか。

桑野議長

貴重なご意見をありがとうございました。以上で本日の議事は終了します。

事務局からの連絡（司会）

第2回食育推進会議は令和7年1月下旬を予定しております。お忙しいところ恐縮ですが、日程調整のほどよろしく申し上げます。

（閉会）